

2023/2/28 (火)

朝の礼拝

聖書 マタイによる福音書 4章 1-4節 (新約聖書4頁)

さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて荒れ野に行かれた。そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエスはお答えになった。

『人はパンだけで生きるものではない。

神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』

と書いてある。」

寄り添う

遠藤周作という作家をご存じでしょうか。戦後『沈黙』や『死海のほとり』などの作品を残しました。彼の描くイエスは奇跡を起こさず、無力で何もできませんでした。彼は、ただ貧しい人、悲しむ人の手を取り、寄り添うイエス像を描きました。

さて今日の聖書で、イエスは荒れ野で四十日間、昼も夜も断食した後空腹を覚え悪魔から誘惑を受けたとありました。“霊”に導かれたからだとありました。つまりイエスが荒れ野で空腹を覚え、悪魔から誘惑を受けたのは神様の導きだったということです。

なぜでしょうか。それならば悪魔の言うように、神の子ならば石をパンに変えるように命じればいいのです。しかしイエスはしませんでした。そして『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と答えます。

生きるためにパンは必要です。でもパンだけのために生きれば欲望は限りなく争いは続き、互いに滅びるだけです。神がイエスを荒野に導いたのは、神ご自身も空腹を覚え、渇きと飢えの苦しみを受けるためだったのではないのでしょうか。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは十字架の死に至るまでわたしたちを愛してください、わたしたちの悲しみも喜びも共にしてください。いま干ばつ、豪雨、地震、戦争によって住まいを失い、離散し、避難している方々に、どうか必要なものが与えられますように導いてください。また明日、卒業式を迎える紫の英和生たちを祝福し、感謝と喜びのうちに旅立たせてください。また学年末のテストに臨む者の健康を守り、共にベストを尽くし、与えられた結果を謙虚に受けとめ、次の学びへの励ましとなるように導いてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン